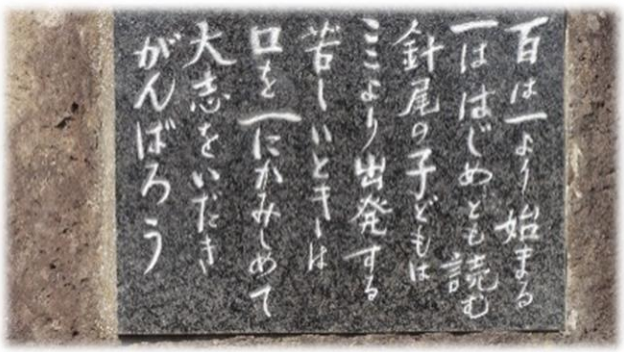
令和３年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



【　学　校　名　】佐世保市立針尾小学校

【　所　在　地　】佐世保市立針尾中町１８６３番地

【　校　　長　】大浦　美輪子

【 学 校 規 模 】児童数　１２６名　　学級数　８学級　（令和３年５月１日現在）

【学校教育目標】一人一人が目標をもち，心豊かで，主体的に学び続ける児童の育成

１　テーマ

笑顔輝く「はりきる子・理解する子・思いやる子」を育てる針尾プロジェクト

２　目的

（１）　本校児童の実態を分析し、基礎基本を大切にした個に応じた指導の充実を図り、確かな学力の向上を目指す。

（２）　地域や関係機関との連携・交流や体験活動等を通して、多くの人とのかかわりの中で、針尾小学校を誇りに思い、ふるさとを愛する児童を育成する。

（３）　「体験学習」を通して児童の豊かな心を育て、すべての児童の笑顔が輝く，明るい学校づくりを推進する。

３　実践内容

（１）学力向上

〇学力テスト

１月に国語と算数の学力テストを全学年で実施した。その結果を分析し課題を職員で共有することができた。これらの取組により子どもたちの学習への意欲の向上が見られ，保護者の家庭学習への意識も高まってきた。また，算数・国語・社会の学習プリント集を新たに整備し，個に応じた指導や家庭学習の充実を図ることができた。

〇読む力・書く力を付ける授業づくり

国語科での「読む力・書く力を付ける授業づくり」，「名文ライブラリ」を通して授業改善に取り組んだ。研修を通して「主体的に取り組むための手立て」と「できた喜びを実感できる手立て」の二つを大切にする授業づくり意識が高まった。また，言語環境を整備し，書く力の向上にも取り組むことができた。

（２）交流連携

〇地区の高齢者の方への敬老のお祝い（９月全学年）

児童が地域に関わる活動の一つとして，地域の高齢者へ敬老のメッセージを送ることにより，地域を支えてこられた人々に感謝の気持ちを伝え，交流を図ることで思いやりの心を育んだ。

〇伝統文化を体験する「お茶会」

地域の方を講師として，６年生対象の茶会を実施した。お点前を体験するだけでなく，自然や他者への感謝の気持ちを持つことなども学ぶことができた。

（３）食農体験

○みかんの栽培（３年）５月～１１月

ＪＡながさき西海青年部の指導を受けながら，地域に根ざした生産活動（摘果・マルチ敷き・収穫）を通して，人々の努力や工夫などに気づくとともに生産する苦労や喜びを感じ取らせた。さらに，ミカン新聞を作成し，広報することで，子供たち一人一人の自己肯定感を育むことができた。また，７月には全校で「みかんの学習」を行った。日頃から慣れ親しんでいる，みかんについて新鮮な学びをすることができた。

○サツマイモ栽培（１・６年）６月～１０月

ＪＡながさき西海青年部の指導を受けながらサツマイモの栽培に取り組んだ。１年生と６年生で取り組ませたことで，互いに思いやりの心を育むことができた。収穫の喜びを共有することで，生きる力と豊かな情操の育成にもつながった。

○海に関する授業（５年）１０月

５年生が，漁協と連携して，水産業に関する学習を行った。大村湾で漁獲される魚の種類や漁獲量の推移，青潮等の問題点について学ぶことで，身近にある針尾の海と大村湾との係りを考えるきっかけとなった。また，海底耕うんにより漁場環境を改善し，大村湾の貴重な資源であるナマコを増やす努力を行っていることなどから，漁業に関わる人たちの思いや願いを知ることができた。

４　おわりに

今年度は，新型コロナウイルス感染症拡大により行事の中止や縮小実施などが続いた。しかし，コロナ禍にあっても「特色ある学校づくり事業」の予算を活用し、地域ともにある学校を目指して取組を行ってきた。「学校の新しい生活様式」の中でも可能な「特色ある学校づくり」を推進した今年度の経験は，来年度に向けて貴重な財産となった。

来年度も，地域の豊かな自然や人材を生かし，地域や家庭と連携しながら，地域に深く根ざし「た特色ある学校づくり」を目指していきたい。